

るもいの未来図を実現する

戦略プログラム

[第5次留萌市総合計画基本計画]



前期計画 2007-2011

バージョン_7.4.1

留 萌 市

基本構想と基本計画の関係



基本計画の概要

1 計画策定の趣旨

基本計画は、基本構想で掲げたテーマ「誇りと満足を目指す みなとまち留萌」の実現に向けて、市民と行政が共に目指す目標を明らかにするとともに、目標を達成するための取り組みの方向を体系的に示し、総合的に施策の展開を図ることを目的として策定しました。

2 計画期間

基本計画の期間は、社会経済情勢の変化などを踏まえ見直しできるようにするため、前期計画【平成19年度（2007年度）】と後期計画【平成23年度（2011年度）】に分けた、5カ年ごとの計画としました。

3 計画の構成

基本構想の“留萌を彩る6つの基本政策プラス1”に基づき、留萌市の戦略プログラムとなる“22の心意気”と、心意気を推し進めるための施策分類を設定し、それぞれの現状と課題を整理し、現在ある課題を解決し、どのような状態を目指すのかを「5年後の姿（2011年）」にまとめました。

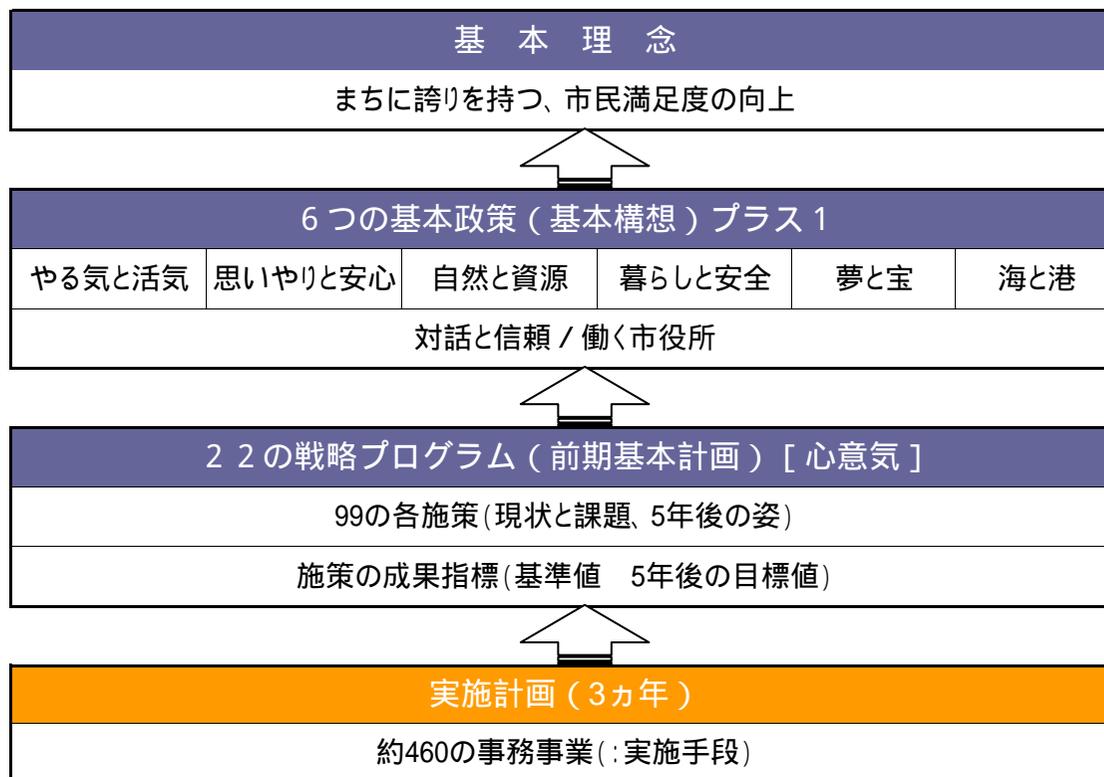
また、目標の達成状況を客観的に図るため、心意気ごとに「成果指標」と「達成目標」を設定しました。

4 進行管理について

毎年度各所管が実施する事務事業評価や目標管理において、実施計画に掲げた事務事業が施策の目的や目標値を達成する手段として適正か、効率的に執行されているかなどの視点で検証していきます。

これによって、各所管における事務事業の見直しや新規事業の検討、現状と目標との乖離状況の分析結果等を通じて、政策経営室が基本計画、実施計画の一括進行管理を行い、次年度以降の重点分野の検討や後期計画における目標値の見直しなどに繋げていきます。

また、評価の過程に市民の意見を取り入れる仕組みについても今後検討し、計画の進行管理に努めていきたいと考えております。



第5次留萌市総合計画 - 基本計画（前期）目次

施策No	2.2の心意気	分類No	施策分類	P
01	地域産業の育成と支援	001	新産業・起業	1
		002	中小企業	
		003	雇用・労働	
		004	地場産品・水産加工	
		005	商店街	
02	都市機能の充実	006	都市計画・再開発・路外駐車場・国土利用	3
		007	地籍調査・住居表示・町名及び町界	
		008	都市景観・屋外広告物	
		009	中心市街地	
		010	道路・橋りょう	
03	地域コミュニティの育成と支援	011	市民活動	6
		012	男女平等参画	
		013	審議会・委員会	
		014	町内会	
		015	コミュニティセンター・町内会館	
		016	集会施設	
04	健康の維持と増進	017	健康・保健予防・介護予防	8
05	安心できる地域医療の充実	018	地域医療	10
		019	地域センター病院	
06	地域福祉の充実	020	地域福祉	12
		021	高齢者	
		022	障がい者	
07	社会保障の充実	023	国民健康保険	14
		024	老人保健	
		025	医療費助成	
		026	母子・寡婦・助産	
		027	年金	
		028	生活保護	
		029	介護保険	
		030	農業	
031	林業			
032	漁業			
033	地産地消			
09	エネルギーの有効利用	034	省エネルギー・新エネルギー	18
10	市民生活の基盤づくり	035	生活環境	20
		036	消費生活	
		037	し尿処理	
		038	火葬場	
		039	墓地	
		040	上水道	
		041	下水道	
		042	浄化槽	
		043	河川・ダム	
		044	除雪	
		045	市営住宅	
		046	火災・救急救命	
		047	防犯	
		048	交通安全	
		049	ごみ・一般廃棄物	
		11	災害に強い地域づくり	
12	税などの負担	051	税・税外収入	24

施策No	2.2の心意気	分類No	施策分類	P
13	子どもの育成と支援	052	子ども未来・少子化対策	25
		053	保育園	
		054	幼稚園	
		055	幼児療育通園センター	
		056	青少年・健全育成	
		057	学校施設	
058	学校教育			
059	学校給食			
15	社会教育の充実	060	社会教育	29
		061	芸術・文化	
		062	スポーツ	
		063	社会教育施設	
16	魅力の再発見と創造	064	観光・イベント	31
		065	国際交流	
17	郷土文化・歴史の伝承	066	郷土文化・歴史	33
		067	文化財	
18	自然環境の保護と緑の整備	068	公園・緑地	35
		069	花・街路樹	
19	港を活かしたまちづくり	070	留萌港	37
		071	貿易	
		072	都市経営	
20	能率の良い市役所づくり	073	地域振興	
		074	統計調査	
		075	広域行政	
		076	財政	
		077	人事	
		078	人材育成	
		079	財産管理	
		080	契約	
		081	車両管理	
		21	信頼される市役所づくり	082
083	広報広聴			
084	請願・陳情及び不服申し立て			
085	情報化			
22	その他の事務	086	教育委員会	44
		087	選挙管理委員会	
		088	監査	
		089	議会	
		090	会計	
		091	平和	
		092	褒章	
		093	表彰	
		094	恩給	
		095	公平委員会	
		096	庁舎管理	
		097	秘書	
		098	住基・戸籍	
		099	その他の事務	

【心意気1】地域産業の育成と支援

内容	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の経済が、「右肩上がり」から「安定成長」の時代に移行し、これまで公共依存の強かった北海道は、特に地域経済の自立が求められています。 そうした経済社会の環境変化のなか、まさに活気を取り戻し、市民が安定した生活基盤を築くためにも、地域経済の活性化や雇用の創出は不可欠です。 そのため、地域産業の育成を目指し、起業や企業化などを支援し、留萌らしい産業を創り出し、雇用を生み出すことで、地域経済の活性化と経済的に安定した生活の確立を目指します。
----	---

目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域産業が元気で、地域経済が活発なまちにすること ■ 新しい雇用をつくり出し、市民の経済生活が安定したまちにすること
----	---

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
1	産業分類総所得の総額	億円	地元経済の盛衰を測る	399.0	382.7	365.1	348.7	343.8	343.8	→		税務課調べ。基準値はH17の数値。
2	空き店舗率	%	商店街の活性化の度合いを測る						10.4	→		商工会議所と商工観光課調べ。基準値はH18年調査の数値。「空き店舗数(17店舗)÷商店街振興組合加盟店(163店舗)×100」
3	小売業の売り場面積当たりの年間販売額	千円/m ²	商業の活性化の度合いを測る		921	832	778	726	726	やや↑		商業統計調査から「年間販売額÷売場面積」。基準値は、H16年の数値。 ※過去データは、左からH9、H11、H14、H16の数値
4	生産年齢人口に対する就業人口の割合	%	市内の雇用動態を測る	68.1	67.8	70.2	74.5	76.3	76.3	→	→	国勢調査から「有業者÷生産年齢人口(15～64歳)×100」。基準値はH12年の数値。 ※過去データは、左からS55、S60、H2、H7、H12の数値
5	製造品等出荷額	億円	地域産業の盛衰を測る	249.1	234.7	241.9	228.8	222.4	235.4	→	→	工業統計調査から。基準値は過去5年の平均値。
6	商品販売額	億円	地元商業の盛衰を測る	1,035.0	1,032.6	1,011.4	899.0	813.8	813.8	→	→	商業統計調査から。基準値は、H16年の数値。 ※過去データは、左からH6、H9、H11、H14、H16の数値
7	商店街の魅力に対する満足度	%	市民満足度を測る						12.0	16.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
8	地域産業への育成や支援に対する満足度	%	市民満足度を測る						6.9	24.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
9	地域の資源や特性を活かした製品を作る企業があることに対する満足度	%	市民満足度を測る						24.7	42.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
001	新産業・起業	<ul style="list-style-type: none"> ●公共事業の縮減や人口減少などの中、地域経済には景気回復にも先の見えない不安感があります。 ●新産業や起業など地域経済の掘り起こしが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特色を活かした新たな産業が創出され、起業や新たな事業展開が徐々に生まれてきています。
002	中小企業	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市の民営事業所は大多数が中小企業であり、資金力や人材力の強化など、経営基盤の安定化が大きな課題です。 ●技術の高度化や経営革新など今日的な経営課題への対応力の強化も必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の企業や商店が、地域の知恵を引き出し、経営も安定し、活気に満ちた経済活動が定着してきています。
003	雇用・労働	<ul style="list-style-type: none"> ●正社員のリストラによりパートや派遣社員などが増加し、雇用保険法改正などにより高齢者や季節労働者の雇用環境が厳しい状態になっています。 ●産業基盤の強化による雇用条件の改善と雇用の確保が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●産業の発展を支える様々な担い手が育成され、雇用の受け皿も増え、雇用条件も改善され、市内の雇用が安定してきています。 ●失業や非正規雇用など様々な事情を抱えた人々が、就労に積極的にチャレンジできる環境が徐々に整ってきています。
004	地場産品・水産加工	<ul style="list-style-type: none"> ●基幹産業の水産加工業は、景気や需要の低迷、労働力不足や生産コストの上昇により経営環境は厳しい状況にあります。 ●水産加工品も含め、地域資源を活かした新たな商品開発の動きもありますが、資金・技術・人材といった面で課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地元資源を活かし、消費者ニーズにマッチした地域ブランドが育ってきています。
005	商店街	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少による購買力の低下や交通網の発達によって市外への消費流出が増え、市内の商店数、販売額が減少しています。 ●経営の合理化や近代化、店舗の共同化などによる資本の効率的な運用を進め、経営基盤を強化することが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●空き店舗の活用など商業者の創意工夫により中心市街地の商店街に交流とにぎわいが戻ってきています。

【心意気2】都市機能の充実

内容	<ul style="list-style-type: none"> 市街地が徐々に広がるとともに中心市街地が空洞化する中で、少子化、高齢化、人口減少時代への対応も考慮し、まちの機能を見直す必要があります。 これからは、自然や資源、地域の歴史・文化を守り、市街地の拡大を抑え、美しく持続可能で、人と人がふれあえるまちを目指す、「コンパクトシティ」の発想を取り入れなければなりません。 毎日の暮らしの中で季節やうるおいを感じ、心身ともに健康で豊かに暮らすため、自然と共生し、郊外にゆとりの空間を保ちながら、まちなかの活力やにぎわいを持続できる都市空間の実現を目指します。 また、これまでに整備した都市環境を生かし、高齢者や子どもたちが、歩いて日常生活ができるような効率的で、便利な都市機能の充実を目指します。
----	---

目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然とまちなかの調和のとれたまちにすること ■ 活力のにぎわいを持続できるまちにすること ■ 効率性と利便性の高いまちにすること
----	--

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
10	中心市街地における居住人口の割合	%	都市機能の充実度合いを測る	10.8	10.4	10.9	10.9	10.8	10.8	やや↑		毎年1月1日現在の住民基本台帳から「(本町、錦町、栄町、開運町の全部と明元町、花園町、旭町の一部)÷全人口×100」。基準値は、H17年の数値。
11	まちの景観に対する満足度	%	市民満足度を測る						64.5	71.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
12	まちの機能に対する満足度	%	市民満足度を測る						5.5	15.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
13	身近な生活道路の整備に対する満足度	%	市民満足度を測る						45.6	54.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
14	他都市への交通の利便性に対する満足度	%	市民満足度を測る						38.6	49.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
15	中心部のにぎわいや、商業・サービス機能などに対する満足度	%	市民満足度を測る						2.0	8.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
16	高齢者や障がい者など、すべての歩行者にやさしい道路整備に対する満足度	%	市民満足度を測る						新規			市民満足度アンケート。H19年調査実施後に基準値と目標値を定める。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
006	都市計画・再開発・路外駐車場・国土利用	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画は、H18年7月に都市計画決定(臨港地区)の見直し、あわせて用途地域、下水道、火葬場の見直しを行いました。今後は都市形態の変化に合わせた見直しが必要です。 ●再開発は、H13年の「十字街西地区再開発」以降事業計画はありません。今後は、街並み景観の向上と秩序ある開発を誘導するため、商店街と一体となった再開発に取り組むことが必要です。 ●路外駐車場は、錦町・本町地区は中心商業地域・繁華街であり、周辺に駐車場が不足しているため設置しています。 ●国土利用法に基づき、一定面積以上の大規模な土地取引をしたときには、都道府県に利用目的などを届け審査を受ける必要があります。留萌市でもH2年度より、この業務を担っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●空洞化対策や駐車場の利用などにより、中心市街地の活性化も進んでいます。 ●秩序ある整備が計画的に図られ、都市の快適性、利便性が向上しています。
007	地籍調査・住居表示・町名及び町界	<ul style="list-style-type: none"> ●地籍調査は、H16～39年までの24年間で調査を行う計画です(H17年度末の進捗率は5%)。長期間の事業であり、調査を実施する地区の順序を検討し、効率的に行っていく必要があります。 ●住居表示は、H5年度の「留萌市住居表示基本計画」に基づき、H13年度末までに8地区125haを実施しました(現在は休止状態)。 ●字名改正に伴う町名地番変更証明を迅速に処理するため資料等の整理をしています。行政区画便覧にない字名が多数あり、確認できる図面等もないため、地籍調査で区域を確定した地区から処理していく方針です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●懸案の地域から計画的に事業を進め、土地の境界に関するトラブルが減ってきています。
008	都市景観・屋外広告物	<ul style="list-style-type: none"> ●都市景観は、H7年に「留萌市景観ガイドプラン」を作成し、景観形成の目標及び指針を定め実施してきました。H16年に景観法が施行され、景観計画を策定し、関連する施策の総合的な実施が可能になりました。しかし、景観に対する市民の関心は薄く、理解を深めることが必要です。 ●屋外広告物は、貼り出しに対する除去事務の一部(はり紙等)が北海道より事務委任されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市景観に対する市民の関心も高まり、地域の魅力を活かした「るもいらしい」都市景観が徐々に形成されています。
009	中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> ●H14年度策定の「留萌市中心市街地活性化基本計画」で、空き店舗活用や市民交流プロモーション事業などソフト的の事業は実施しましたが、ハード整備は進んでいないのが現状です。 ●当初の想定より人口減少が進んだため、現計画の見直しが必要となっています。 ●まちづくり三法(都市計画法、大店立地法、中心市街地活性化法)の改正により、基本計画の認定に向けた検討が急がれます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地がまちの拠点としてにぎわい、市民(消費者)の満足度も高まり、活気が戻ってきています。

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿（2011年）
010	道路・橋りょう	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備は、「第1次道路整備五カ年計画」に基づき進めてきましたが、財政事情もあり計画通りには進んでいないのが現状です。幹線道路の計画的な整備、災害時の避難路の確保、損傷の著しい箇所の維持補修が課題です。 ●橋りょうは、阪神・淡路大震災で橋りょう落下による被害が顕在化し、橋りょうの耐震基準が大幅に改訂されました。これを受け新設のみならず、改訂以前に設置された橋りょうも改善措置をとるよう国から指導を受けていますが、新基準で作られた橋りょう以外には未だ対応が進んでいません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内幹線道路のネットワークの整備が進み、都市機能が向上しています。 ●安全で人に優しく、快適な生活道路の整備が計画的に進んでいます。 ●災害にも強い橋りょう整備のための橋りょう診断が進んでいます。

【心意気3】地域コミュニティの育成と支援

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所とのつきあいや市民相互の日常的な関わりの意識が薄くなっています。 ・町内会やサークル、ボランティア活動など、個人的な利害を超えた市民相互の日常的なつきあいの大切さを再確認し、思いやりやぬくもりのあるコミュニティを再生する必要があります。 ・そのため、市民活動や町内会、女性の社会参画など地域コミュニティの育成に努めます。
----	--

目的	<ul style="list-style-type: none"> ■思いやりとぬくもりの地域コミュニティを再生すること ■市民活動、市民参加、ボランティア活動が活発になること
----	---

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
17	委員会・付属機関参加者の女性構成比率	%	男女の平等な社会参画の度合いを測る	21.8	22.8	25.3	33.4	32.7	32.7	50.0		総務課調べ。基準値はH17年の数値。
18	町内会加入率	%	地域コミュニティへの参加度合いを測る	89.1	87.3	86.9	86.4	83.2	83.2	85.2	90.0	市民サポートG調べ。基準値はH17年の数値。
19	地域コミュニティの育成や支援に対する満足度	%	市民満足度を測る						17.4	41.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
20	市民のまちづくり活動への参加機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						9.4	34.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
21	市民のボランティア活動への参加機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						19.8	39.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
22	町内会などの地域活動への参加機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						34.6	58.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
011	市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ●H15年度に「市民活動の推進に関する条例」を制定し、H16年度にはボランティアセンターと協力して「市民ボランティア制度」を立ち上げました。 ●市民活動団体の財政基盤は弱く、自主運営を進めるためにも安定した収入の確保が課題です。市からの受託事業などにより、収入を活動資金にできる協働型の支援が必要です。 ●市民相談は、無料法律相談の開催(月1回)及び市民相談員の対応(随時)があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動やボランティアが市民に定着し、市民活動団体等が主体性を持ってまちづくりに取り組み、互いに連携しながら活発に活動しています。
012	男女平等参画	<ul style="list-style-type: none"> ●長く続いてきた男性中心の社会構造の改革が必要です。少子社会への対応、家庭と仕事の両立など、女性の能力を最大限に生かすための、地域社会のあり方、支援の方法をみんなで考える必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●男女が個人として尊重され、性別による差別的取り扱いを受けず、企業や男性(夫)の理解や認識も進み、女性がその能力を発揮しています。
013	審議会・委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●各種の市民委員の公募を行なっていますが、自ら応募する市民は少ないのが現状です。市政への市民の参加意識を高め、参加しやすい環境を作るなどの取り組みが必要です。 ●審議会等の女性委員の比率(登用率)は全道でも上位ですが、自ら応募する女性は少なく、女性の積極的な参加も課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市の仕事の企画立案・実施・評価などの過程に、自ら参加する市民が増えてきています。
014	町内会	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少や高齢化の進展に伴い、町内会活動が縮小し、会員の減少など組織基盤が弱まっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニティが自治の担い手として機能し、互いに協力しあいながら、地域の課題を自らの努力で解決しています。
015	コミュニティセンター・町内会館	<ul style="list-style-type: none"> ●市内4箇所のコミュニティセンターは、H18年度から指定管理者制度を導入し、それぞれのコミュニティセンター運営協議会が経営意識を持って、運営に当たっています。 ●センターの利用率は低下しており、新たなコミュニティ事業の展開による利用促進が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年齢を問わず利用が進み、コミュニティ活動や世代間交流も活発になっています。
016	集会施設	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌勤労福祉センター(婦人の家・共同福祉・総合福祉)は、H16年4月から指定管理者制度を導入し、運営しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既存施設の特性を活かした活用が進み、地域コミュニティが活性化しています。

【心意気4】健康の維持と増進

内容	<ul style="list-style-type: none"> 健康で生き生き暮らすことは、いつの時代も暮らしの基本です。 市民の健康についての意識を高め、誰もが健康で充実した人生を送れるよう、予防や啓発、また健康作りに努めます。
----	--

目的	■市民の健康を維持し、元気な市民がたくさんいるまちにすること
----	--------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
23	基本健康診査の受診率	%	健康管理に対する市民意識を測る	9.0	9.9	8.0	9.1	10.5	10.5	30.0		げんき課調べ。「健診受診者÷国保加入者×100」。基準値はH17年の数値。
24	基本健康診査における“40～64歳の肥満者”の割合	%	生活習慣病予備軍の割合を測る		17.0	17.8	16.0	18.7	18.7	15.0		げんき課調べ。「肥満者÷40～64歳の国保加入者×100」基準値はH17年の数値。
25	健康管理に気をつけている市民の割合	%	健康管理に対する市民意識を測る						87.4	89.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
26	健康の維持や増進に対する満足度	%	市民満足度を測る						25.8	49.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
27	病気予防の健診、相談、指導に対する満足度	%	市民満足度を測る						40.1	57.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
28	介護予防の健診、相談、指導に対する満足度	%	市民満足度を測る						21.8	46.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
017	健康・保健予防・介護予防	<ul style="list-style-type: none">●健康診断の結果や主要死因、国民健康保険医療費の状況を見ると、市民の生活習慣改善(メタボリック・シンドローム対策)に向けた取り組みが急務です。現状では十分とは言えず、特に働き盛りの年齢層の健康に対する関心が低いのが課題です。●H18年度の介護保険法改正により、介護予防と自立支援のための地域支援事業が重点施策として位置づけられました。	<ul style="list-style-type: none">●市民の健康意識が高まり、予防や健康づくりに積極的に取り組む市民が増えています。

【心意気5】安心できる地域医療の充実

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して健康に暮らせることは、みんなの願いです。 ・病院・診療所など市内の医療機関の役割分担や連携を深め、地域医療全般の機能を高めながら、地域センター病院としての市立病院の健全な経営と市民から信頼される医療サービスの提供に努めます。
----	--

目的	■市民が安心して暮らせる医療環境を提供すること
----	-------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
29	地域医療に対する満足度	%	市民満足度を測る						10.6	17.0	60.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
30	いつでも安心して診断や治療が受けられることに対する満足度	%	市民満足度を測る						17.4	27.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
31	高度な医療を提供する中核病院に対する満足度	%	市民満足度を測る						14.8	22.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
32	市立病院利用（入院）における患者満足度	ポイント	患者満足度を測る						8.0	8.5		市立病院調べ。基準値はH18年調査の数値。
	市立病院利用（外来）における患者満足度	%	患者満足度を測る						64.0	70.0		市立病院調べ。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
018	地域医療	<ul style="list-style-type: none"> ●多様化する市民の医療ニーズと高齢社会に対応するため、医療・保健・福祉機関相互の連携を強め、包括的な保健医療体制の確立が必要です。 ●市立病院は、救急病院として、夜間、休日の診療体制を確保しています。 ●へき地患者移送事業で、公共交通の不便な地域から市街地の病院へ通院する患者の移送を行い、疾病疾患時の安心を確保しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域完結型医療が進み、市民の誰もが、いつでも適切な医療を受けることができ、安心感が高まっています。
019	地域センター病院	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市立病院が二次医療圏における中核病院としての役割を果たすためには、経営健全化が最も優先すべき課題です。 ●健全経営には、①固定医の確保による安定した医療の提供、②最新の医療技術や医療機器導入による先端医療の提供、③患者の満足感を高める医療サービスの提供、④患者が安心して医療を受けることができる看護体制など、患者本位の医療を進める必要があります。 ●H15年からの研修医制度の影響もあり、産婦人科、形成外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、呼吸器科、循環器科が固定医から出張医へ変わり診療体制が縮小したため、病床も休床を余儀なくされ、診療報酬の減収につながっています。さらには、診療報酬のマイナス改定による医業収入の減収もあり、経営の見通しは厳しい状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療体制が充実し、市内で高度な医療を受けることができ、市民の安心感、信頼度も高まっています。

【心意気6】地域福祉の充実

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴い高齢者の人口割合が増えていきます。 ・そうした地域社会では、市民が互いに温かいつながりを持ち、「お互いさま」の気持ちを持って、助け合って暮らしていくことが不可欠です。 ・高齢者や障がい者も、生きがいを持ち、安心して暮らせるように、市民一人ひとりが、自分のできる役割を果たし、誰もが穏やかに、ほほえみや温かみのある暮らしができるように努めます。
----	---

目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者がいきがいをもち、安心して暮らせること ■ 障がい者が、希望を持ち、自立して暮らせること
----	--

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
33	老人クラブ加入率	%	高齢者相互の結びつきの度合いを測る	28.5	30.4	27.7	27.4	25.8	28.0	やや↑		いきがい課調べ。「加入者数÷60歳以上人口(年度末)」基準値は、過去5年の平均値。
34	高齢者や障がい者がいきがいをもち、暮らしていると感じる市民の割合	%	高齢者や障がい者の暮らしに対する市民意識を測る						25.8	42.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
35	地域福祉の充実に対する満足度	%	市民満足度を測る						16.2	36.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
36	市民が互いに助け合って生活することに対する満足度	%	市民満足度を測る						23.3	48.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
37	高齢者が安心して暮らせることに対する満足度	%	市民満足度を測る						11.5	32.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
38	障がい者が自立して暮らせることに対する満足度	%	市民満足度を測る						6.7	30.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
020	地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の福祉ニーズに応えるため、地域の福祉活動の拠点である社会福祉協議会の援助体制の整備と活動強化及びボランティアセンター機能の支援及び育成を図っています。 ●民生委員・児童委員は、子どもの虐待防止、生活困窮者支援、さまざまな相談業務など、市民と行政とのパイプ役として諸問題の解決に取り組み、地域に密着した活動を行っています。 ●福祉業務に関わる市民からの苦情等の対応、判断能力の不十分な方々を保護・支援し不利益から守る成年後見制度、行旅病人等の相談、無縁仏の対応業務も行なっています。こうした細やかな福祉サービスの制度を理解してもらうことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の相互協力の意識が高まり、温かく、信頼される地域福祉が行われ、市民の日常生活の安心感が高まっています。
021	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ●サービスを必要としている高齢者の把握に努め、適切なサービスを提供し、できるかぎり在宅で生活が送れるよう取り組んでいます。 ●今後もサービス内容がニーズにあったものか否かを常に検証し、関係機関や地域との連携を強化する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者やその家族の安心感も高まり、高齢者自身が経験や知識を活かし社会参加するなど、健康で、明るく、いきいきと生活している高齢者が増えています。
022	障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者自立支援法の施行により、障がい者が自立した生活を営み、安心して暮らせる福祉サービスの提供を目指し、市町村には地域生活支援事業の実施が義務付けられました。また、障がい者へのサービスや情報提供等に関する相談、支援体制の充実が必要です。 ●H18年10月、2つの地域共同作業所がNPO法人となり、新しい体系で障がい者の自立を支援する事業展開を始めました。障がい者が活動できる場、雇用の場の確保が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者の自立の精神を大切にし、地域が見守り、手助けし、障がい者の暮らしを支えています。 ●一つの施設で異なる障がいを持つ人にサービスが提供できるようになり、障がい者が身近なところでサービスを利用でき、選択の幅も広がり、生活が向上しています。

【心意気7】 社会保障の充実

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・先行きが不透明な現状の中で、経済面、生活面で将来に不安を抱く人が少なくありません。 ・「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という共助の精神を基礎に、国の制度に基づき、医療、介護、生活、経済などのセーフティーネット(安全網)をみんなで保持する意義や必要性を理解しあい、安心して、生活できる地域社会作りに努めます。
----	--

目的	■ 万一の場合でも、市民が安心して生活できること
----	--------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
39	生活保護受給者数	人	市内における生活困窮者の度合いを測る	496	491	488	506	527	527	やや↓		社会福祉課調べ。「受給者(年間平均)」。基準値はH17年の数値。
40	要介護(支援)認定者率	%	介護保険被保険者の自立度合いを測る	10.9	12.8	14.4	16.8	17.9	17.9	やや↓		いきがい課調べ。基準値はH17年の数値。
41	国民健康保険の一人当たり1年間の医療費	千円	市民の健康の度合いを測る	152	167	182	187	196	196	やや↓	186	国民健康保険事業特別会計から。基準値はH17の実績値。
42	老人医療の一人当たり1年間の医療費	千円	高齢者の健康の度合いを測る	713	767	788	828	930	930	やや↓	883	老人保健事業特別会計から。基準値はH17の実績値。
43	いまの生活不安度	%	現在の生活に対する市民意識を測る						80.8	63.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
44	老後の生活不安度	%	老後の生活に対する市民意識を測る						89.4	74.0	40.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
45	社会保障に対する満足度	%	社会保障に対する市民満足度を測る						9.0	26.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
023	国民健康保険	<ul style="list-style-type: none"> ●国民健康保険は、地域経済の低迷を受け年々加入者が増加の傾向にあります。 ●加入者の急速な高齢化と疾病の高医療化が進み、国民健康保険財政を安定的に運営するためには医療費の適正化、保健予防事業の充実が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の健康意識が高まり、生活習慣病などの患者が減少し、医療費の適正化が進み、保険財政の安定化が図られています。
024	老人保健	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢社会でも、高齢者が健康で、生きがいのある老後の生活を安心して送るため、安定した医療保険制度が必要です。 ●しかし、国民医療費に占める老人医療費は増大しており、現役世代の負担は重くなっています。 ●H20年4月から、75歳以上の後期高齢者を対象とする新しい医療保険制度が導入される予定であり、高齢者自身の適正な負担と安定した保険財政の維持が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康で、いきいきと暮らす高齢者が増え、高齢者医療保険も安定的に運営されています。
025	医療費助成	<ul style="list-style-type: none"> ●経済的に生活困難なひとり親世帯や障がい者、乳幼児を対象に、医療費等の助成をしています。 ●経済的に安定した生活(自立)をうながしながら、安心して医療サービスを受けられる環境整備が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●助成制度と自助努力によって健康で、安心な日常生活を送っています。
026	母子・寡婦・助産	<ul style="list-style-type: none"> ●母子家庭世帯は、正規雇用以外の就労形態が多く、経済的、社会的に不安定な状況にあり、自立が課題です。 ●経済的困窮から助産に必要な費用がなく、子どもを無事に出産できない世帯があるため支援が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●母子家庭でも経済的に安定し、自立した生活に向けて取り組んでいます。
027	年金	<ul style="list-style-type: none"> ●公的年金制度による高齢期の生活の安定を図るため、無年金者や未加入者の解消が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民(国民)の公的年金制度に対する理解も深まり、老後の生活の安心感が高まっています。
028	生活保護	<ul style="list-style-type: none"> ●生活保護は、近年、傷病や生活困窮で受給者が増加傾向にあり、就労可能な受給者が就労し自立することが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●就労可能な受給者が、自らの努力と公的支援により自立に向かうケースが増えています。
029	介護保険	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険制度の浸透や高齢者の増加により、介護を必要としている人が増加し、それに合わせて事業者も増え、介護サービスの環境整備も進んできました。 ●今後は、施設介護から在宅介護への転換とともに自立支援が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●介護サービスや事業所情報が統一基準で公開され、利用者が事業所(者)やサービスを自由に選択でき、満足度が向上しています。

【心意気 8】地産地消と一次産業の推進

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の健康志向や食文化の進展に伴い、「安全・安心な食料」「生産者の顔の見える食料」に大きな期待が寄せられています。 ・今こそ、留萌の海と大地から生み出される産物を活かす知恵を出し合い、生産者も消費者も、留萌の“地力”を“生きるエネルギー”に変えていく必要があります。 ・日本海で獲れる魚介類や山々で採れる農作物などの留萌の産物を、市民が自然の恵みと受け止め、積極的に消費することによって、生産者、消費者、行政が一体となって地域経済の掘り起こしや活性化につなげていけるよう努めます。
----	---

目的	■ 留萌の地力を掘り起こし、地域経済の活発なまちにすること
----	-------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
47	産直市等の参加者数	人	不特定多数を対象とした地元産品の人気度を測る					22,000	22,000	↗		農林水産課調べ。基準値はH17年の数値。
48	農業生産高	百万円	農業活性化の度合いを測る	790.0	760.0	800.0	770.0	780.0	780.0	→	→	農林水産省「農業産出額」、農林水産関係市町村データ(年産)より。基準値は過去5年の平均値。
49	漁業生産高	百万円	漁業活性化の度合いを測る	633.7	790.1	803.2	663.9	853.2	748.8	→	→	農林水産課調べ。基準値は、過去5年の平均値。
50	地元産品であることを意識して商品を選択する市民の割合	%	主に市民を対象とした地元産品の人気度を測る						51.7	57.0	65.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
51	地産地消が推進されていることに対する満足度	%	市民満足度を測る						15.6	41.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
52	農林漁業の体験などができることに対する満足度	%	市民満足度を測る						16.4	43.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
53	地元産品を買い物できる店があることの満足度	%	市民満足度を測る						34.6	52.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
030	農業	<ul style="list-style-type: none"> ●農業は、稲作を中心に、畑作・肉用牛を含めた複合経営を行っています。近年の農産物価格の低迷や経営コストの増加、後継者・労働力不足の解決という課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業の担い手の確保や育成が進み、経営基盤も安定し、積極的な設備投資など経営改善に取り組み、安全・安心な農産品が供給されています。
031	林業	<ul style="list-style-type: none"> ●近年外国産材の輸入による木材価格の低迷により、収益を追求した林業の経営は厳しい状況にあります。一方で、地球温暖化など地球環境に対する問題意識の高揚から、より一層の森林整備が求められています。 ●森林所有者の不在村化、高齢化、担い手不足などの問題が顕著化し、自己所有の森林を整備する意欲が低迷しているため、その対策が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市有林の保全管理が継続的に行われるとともに、一般の森林所有者の森林整備に対する意欲も高まり、民有林の森林整備も進んでいます。
032	漁業	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業は、沿岸漁業を主体とした経営を行っています。近年の水産物価格の低迷や経営コストの増加、後継者・労働力不足の解決という課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業の担い手の確保や育成が進み、経営基盤が安定し、積極的な設備投資など経営改善に取り組み、安全・安心な水産品が供給されています。
033	地産地消	<ul style="list-style-type: none"> ●産直市「うまいよ！ るもい市」の開催を通じ、地元産品の消費拡大を図っています。 ●今後は、観光による交流人口や学校給食での活用など更なる消費拡大が必要です。 ●一方で、消費者ニーズに応えられるだけの生産量がないのも課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地場産品への関心や消費も高まり、安定供給体制も確立し、地域の1次産品がブランド化され、全国の消費者が“留萌産”を求めようになっています。

【心意気9】エネルギーの有効利用

内容	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、車中心の現代社会は、道路、駐車場の整備、エネルギーの消費、交通事故など社会的なコストが大きく、環境にも大きな負荷を与え、高齢者、子どもには優しくない都市環境を作っています。 次の世代に住みよい環境を残していくためにも、自然の恵みを活かし、資源を大切に、地球環境に配慮しながら、石油製品などの化石燃料や木材などの消費を抑え、風力や太陽光などの新エネルギーの利活用に努めます。
----	---

目的	■地球環境を守るために、自然にやさしい生活を送ること
----	----------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
54	一件当たり1年間の電灯電力量	k w	省エネルギー意識の浸透の度合いを測る	3,582	3,577	3,609	3,629	3,663	3,612	やや↓	やや↓	北海道電力「需要電力の推移」から。「電灯」には、一般家庭用と街灯分が含まれる。基準値は、過去5年の平均値。
55	エネルギーや資源の有効利用や節約をする気持ちのある市民の割合	%	エネルギーや資源の有効利用や節約に対する意識の度合いを測る						17.3	41.0	65.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
56	リサイクル商品の利用、資源の有効利用に対する満足度	%	市民満足度を測る						25.1	49.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
034	省エネルギー・新エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の日常生活や企業の事業活動におけるエネルギーの消費は、二酸化炭素を大量に排出し地球温暖化の原因となっています。日常生活や事業活動のなかで、省エネルギーの意識を高めていくことが課題です。 ●民間風力発電施設(H9～H13建設)に対し、クリーンエネルギーの普及を目指し様々な行政支援を行っています。 ●留萌市バイオマスタウン構想に基づき、廃棄物の燃料化やバイオマスのガス化発電等について検討を進めています。 ●新エネルギー資源の実態や利用の可能性など、基礎的データの把握が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●限りある資源の有効活用に対する市民や企業の意識も向上し、豊かな自然環境を次世代に引継ぎ、自然と共生する持続可能な地域づくりに向かって、市民・企業・行政が一体となった取り組みが進んでいます。

【心意気10】市民生活の基盤づくり

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪寒冷の厳しい自然条件や社会生活によって起こるさまざまな事件、事故から毎日の暮らしを守り、合わせて個々の欲求と地域全体のバランスを図り、安全で安心で清潔な生活環境を市民みんなの力を合わせて築いていかなければなりません。 ・交通安全や防犯への取り組み、河川やダムを整備、上水道の供給、下水道やし尿、ごみの処理、防火など生活全般に市民の努力と協力が必要です。 ・特に、冬期間を快適、安全に生活するための除排雪には、大きな経済的な負担が伴うため、市民の自助努力、マナーの向上が必要です。
----	--

目的	■市民が、快適で安全な生活環境で暮らせるまちにすること
----	-----------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
57	下水道普及率	%	衛生環境整備の度合いを測る	57.6	63.5	69.2	71.5	74.0	74.0	82.2		下水道課調べ。「処理区域人口÷行政区域人口×100」。基準値はH17年の数値。
58	市民一人が1日に出すごみの量	g	環境保全に対する市民意識の度合いを測る	672.3	676.7	685.1	645.6	632.1	632.1	615.0	600.0	美サイクル館調べ。一般家庭からの全てのごみが対象。基準値はH17年の数値。
59	普通救命講習受講率	%	災害時における救命意識と技術の浸透の度合いを測る	6.4	7.3	8.7	10.1	11.5	11.5	20.0		消防組合調べ。基準値はH17年の数値。
60	火災、事故などへの備えがある安心できるまちであることに対する満足度	%	市民満足度を測る						15.2	40.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
61	下水道水洗化率	%	暮らしの環境が向上したのかを測る	79.1	80.3	81.1	82.8	82.3	82.3	86.3		下水道課調べ。「水洗化済人口÷処理区域人口×100」。基準値はH17年の数値。
62	市営住宅の入居率	%	利用状況と整備状況を測る		91.4	88.8	87.1	86.2	85.3	85.6		建築指導課調べ。「入居戸数÷管理戸数×100」。基準値はH19年1月現在の数値。
63	清潔で安心で、暮らしやすいと感じる市民の割合	%	清潔、安心、暮らしやすさに対する市民意識を測る						31.3	45.0	60.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
64	除雪満足度	%	市民満足度を測る						30.1	36.0	60.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
65	除雪マナーの遵守と市民相互の協力に対する満足度	%	市民満足度を測る						22.3	36.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
66	ごみの減量とリサイクルに対する満足度	%	市民満足度を測る						46.1	64.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
035	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市環境基本条例がH15年4月に施行され、H18年からは留萌市環境基本計画が施行されています。今後は市民、事業者に対し条例と計画の理解を深めてもらい、環境に対する意識の向上と協働による事業の展開を図ります。 ●巡回バスは、市内唯一の公共交通であり、過疎化等による利用者数の減少が課題です。 ●空き地・空き家は、放置されているのが実態です。周囲の安全、環境美化の面で所有者へ適切な管理及び解体処理を今後も要請していきます。 ●街路灯は、町内会や街灯組合に設置費の補助を行っていますが、計画的な設置と維持補修が課題です。 ●畜犬は、危害防止、公共の安全確保、飼い主のマナー向上に向けての指導と啓発の強化が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市環境基本計画の理念が浸透し、環境問題、環境保全に関する市民や企業の意識も高まっています。 ●巡回バスは、安定した運営を行なっています。 ●空き地・空き家は、所有者の理解も深まり、住環境の美化と危険防止が進んでいます。 ●街路灯は、町内会や街灯組合による計画的、効果的な設置により、防犯面での安心感が高まっています。 ●畜犬は、狂犬病予防注射の実施率も高まり、飼い主のマナーも向上しています。
036	消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ●消費生活に関するトラブルは、産業経済のグローバル化、IT環境の進展などにより新たな形態のトラブルが発生しており、若年層や高齢者層を中心として増加傾向にあります。 ●留萌地域消費生活センターは、施設の老朽化、狭い駐車場、有料利用の伸び悩みがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●消費者教育が充実し、トラブルが未然に防止され、消費生活の安心感が高まっています。
037	し尿処理	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市外2町衛生センター組合が、し尿処理場の設置、維持管理に関する事務を共同(留萌市・小平町・増毛町)で処理しています。 ●処理施設は、建設後30年余が経過し老朽化が進んでいます。公共下水道施設の整備も進んでいるため、処理能力の縮小も考慮しながら施設の改善を図ることが必要です。 ●浄化槽の普及及び公共下水道整備の促進により、し尿処理量が年々減少しているため、手数料(収集料金)の見直しが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●受益者負担の原則に基づく適正な手数料収入を原則とした施設の維持管理が行われています。
038	火葬場	<ul style="list-style-type: none"> ●H16年に開設した「やすらぎ聖苑」は、留萌市外2町衛生センター組合が、施設の設置及び維持管理に関する事務を共同(留萌市、小平町)で処理しています。 ●今後は維持管理と構成団体の見直しの検討が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●終焉の儀式的場にふさわしい環境が持続されています。
039	墓地	<ul style="list-style-type: none"> ●市営墓地は、貸付可能な区画は全て貸付けしています。 ●新規墓地希望者に対応できる区画数が不足していることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規墓地希望者の数を見ながら、整備に取り組んでいます。
040	上水道	<ul style="list-style-type: none"> ●人口の減少や景気低迷、生活様式の変化によって使用水量が減少し、水道事業会計の収支の均衡を保つことが困難になってきています。 ●老朽化が進んだ施設もあり、給水能力を高め、安定した供給を図るため「配水施設整備基本計画」を策定中です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全で安定した水道水の供給が維持されています。
041	下水道	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市公共下水道は昭和50年に事業着手し、現在も整備中です。 ●認可区域の未整備地区については効率的な整備を行い普及率の向上に努め、あわせて下水道財政の健全化を図ることが必要です。 ●環境保全のため下水処理水の有効活用についても検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公共用水域(海岸や川など)の水質が保全され、市民の衛生的で快適な生活環境の改善が進んでいます。

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
042	浄化槽	<ul style="list-style-type: none"> ●H12年度に排水処理基本計画を策定し、13年度から下水道認可区域外を対象に浄化槽設置整備事業を実施しています。 ●基本計画の見直しとともに農漁村部での浄化槽設置を推進するための方策が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●下水道認可区域外で浄化槽が普及し、市民の快適で、衛生的な生活環境の改善が進んでいます。
043	河川・ダム	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌川は昭和63年の大洪水など幾度かの洪水に見舞われてきました。現在、国では留萌川水系河川整備計画を策定し留萌ダムや大和田遊水地など計画的な河川整備を進めています。 ●その他の河川でも北海道と留萌市で河川改修、災害復旧などの事業を行っていますが、未改修の原始河川もまだ多く残っているのが現状です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の生命・財産を洪水から守るためのダムや河川が整備・管理され、市民が安心して暮らしています。
044	除雪	<ul style="list-style-type: none"> ●これまで車両通行と通学路の確保を重点に除排雪を行ってきました。 ●都市機能の発展、除雪に対する市民ニーズの高まりなどを背景として、きめ細かな除雪が求められていますが、一方で宅地内から道路への雪出しなどモラルハザードによる交通障害もなくなりません。 ●坂道対策として行っているロードヒーティングも10年以上が経過し、老朽化が進み補修の増加や稼働不良、光熱費の増大も顕著になっており施設の更新の是非についても検討が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の協力と効率的な除排雪により、冬の快適な生活に対する市民の満足度も徐々に向上しています。
045	市営住宅	<ul style="list-style-type: none"> ●現在1,417戸の市営住宅を管理しています。入居世帯の5割以上が高齢者世帯または高齢者を含む世帯です。 ●H3年以前に建設された住宅(全体の約9割)は、バリアフリー化が進んでいません。昭和40年代建設の低層住宅は、居住水準が低く、入居希望者も少ないため空き家が増加しています。 ●課題は、公営住宅の役割を整理した上で、整備計画を策定し、街なか居住へと誘導することです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●居住水準が向上し、安心して暮らせる住環境が整い、居住者の満足度が向上しています。
046	火災・救急救命	<ul style="list-style-type: none"> ●近年の災害により、市民の防災意識が高まっています。また、防災行政を取り巻く状況も大きく変化し、従来の関係機関のみによる防災活動から、地域と行政が一体となった総合的な防災体制の確立が重要です。 ●課題として、多様化、大規模化する災害・事故、建築物の高層化、複雑化に対応し、市民の生命・財産を守るため消防体制の充実強化と高度化があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●火災を含めあらゆる災害に対して、市民の自助、共助の意識が高まり、避難情報等の伝達もスムーズになり、地域防災の体制が浸透しています。 ●大規模災害への体制が強化され、高齢者や障がい者などの災害弱者の安全も確保されています。
047	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ●自主防犯組織の育成のため各町内会の推薦制度により「地域安全活動推進委員」を組織化し、企業会員とともに各種犯罪の抑制活動を展開しています。 ●H16年には、一般市民の防犯活動として「ついでにパトロール隊」が発足し、現在は約550人の登録となっています。 ●今後は、町内会等と協力しながら「見える防犯活動」を継続して取り組むことが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全で安心な暮らしのため、地域が一丸となって取り組み、市民が「安全で安心なまち」を実感でき、犯罪件数も減少しています。
048	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ●6期60日間の交通安全運動と小学校や老人クラブなどでの交通安全教室の実施など各種交通安全運動を実施し、交通事故の抑制を目指しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭・事業所・地域の交通安全意識が高まり、市内の交通事故はゼロに近づいています。
049	ごみ・一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ分別意識の向上などにより、ごみの減量化、資源化が進んでいます。 ●美サイクル館施設の維持補修や新たな最終埋立処分場の確保が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●快適な生活環境を目指し、ごみ減量、分別種の見直しや資源の再利用・再資源化による有効利用も進み、市民の環境保全の意識がさらに高まっています。

【心意気11】災害に強い地域づくり

内容	・台風や地震、津波などの自然災害から、市民の生命・財産を守るため、町内会などの地域コミュニティを基礎に自主防災の意識を高め、同時に的確な情報を提供する体制を確立します。
----	--

目的	■ 自然災害から市民の生命・財産を守るまちにすること
----	----------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
67	町内会における自主防災組織の組織数	件	地域コミュニティの防災意識の度合いを測る					6	6	やや↑		総務課調べ。基準値はH17年の数値。
68	普段から災害への備えをしている市民の割合	%	防災意識の高い市民の割合を測る						31.5	35.0	60.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
69	災害に強いまちであることに対する満足度	%	市民満足度を測る						23.3	48.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
050	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 共助のメニューを取り入れた市民防災訓練の実施で、市民の防災意識が高まり、改めて共助の大切さが芽生えてきています。 ● 大きな自然災害が発生した場合は、行政だけでは対応が困難なため、災害弱者の救済を地域(自助、共助の仕組みの確立)と行政との連携で行う必要があり、連携の仕組みの確立が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の被害縮小に向けた地域の助け合いの精神(向こう三軒両隣)が浸透し、市民が安全で安心な暮らしをしています。

【心意気12】 税などの負担

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・税や使用料、手数料などの市民の負担は、まちの運営(自治)を支える基本です。 ・こうした負担を、公平、公正に、あるいはサービスを受ける割合に応じて市民が負担することの意味を理解しあい、税などの収納率(納付率)の向上を目指します。
----	---

目的	■市民みんなが公平、公正に地域社会を支え合うまちにすること
----	-------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
70	その年度の税や住宅使用料、水道料金などの総体の収納率	%	まちづくりに必要な経費を公平に負担するという意識の浸透度を測る	97.0	96.8	96.7	96.7	96.3	98.0	98.0	98.0	各課調べ。「その年度の収入額÷調定額×100」。基準値、目標値は財政再建計画の目標値を採用。
71	税などの市民負担についての理解度	%	まちづくりに必要な経費を公平に負担することに対する市民の理解度を測る						新規			市民満足度アンケート。H19年調査実施後に基準値と目標値を定める。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
051	税・税外収入	<ul style="list-style-type: none"> ●市税や税外収入の収納率の向上を図るため、H18年4月に収納対策室を設置し事務体制を強化しました。 ●これまでも、悪質な滞納者には納付催告や処分をしてきましたが、公平で適正な納税や市民負担を実現するためにも、引き続き収納確保に向けた更なる滞納対策が課題です。 	●市民の自治意識の向上とともに収納率も高まっています。

【心意気13】子どもの育成と支援

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは地域社会の宝です。 ・少子化が進んでいる今日、次代を担う子どもたちの可能性を地域の宝として、みんなで育む決意が必要です。 ・家庭・学校・地域・行政が一体となって、子どもたちの健全な成長を願い、子どもが育ちやすい環境、子育てしやすい環境作りに努めます。
----	--

目的	■子どもたちが、心身ともに健康・健全に成長できるまちにすること
----	---------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
72	地域のこわいおじさん・おばさん運動への登録延べ件数	件	地域の青少年健全育成に対する意識度を測る	927	4,429	4,490	4,510	4,525	4,525	やや↑		女性青少年室調べ。基準値はH17年の数値。
73	年齢別人口で見える子ども（0～14歳）の割合	%	少子化の進行度合いを測る						12.5	→	→	住民基本台帳から、毎年10月1日現在で「0～14歳の子どもの人口÷総人口×100」。基準値はH17年の数値。
74	子育てしやすいマチと感じる市民の割合	%	子育てしやすいマチと感じる市民の度合いを測る						24.6	40.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
75	地域の子どもの育成や支援に対する満足度	%	市民満足度を測る						19.2	42.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
76	子育てしながら働ける環境に対する満足度	%	市民満足度を測る						11.4	32.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
77	幼稚園と保育所に対する満足度	%	市民満足度を測る						16.5	42.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
78	障がい児教育の充実に対する満足度	%	市民満足度を測る						8.0	36.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
052	子ども未来・少子化対策	<ul style="list-style-type: none"> ●核家族化の進行や地域の近所づきあいが希薄になるなど、母親が育児に関する悩みや不安を相談できる人が少なくなっています。未就学児童や小学生を持つ世帯の約4割が、育児に対して不安や負担を感じています。 ●親や地域の養育力が低下し、児童虐待や養育放棄などの問題が発生しています。 ●非婚化、晩婚化、晩産化、核家族化、女性の社会進出、就労形態の多様化などにより少子化も進行しています。 ●遊びを通じての友達づくりや、異年齢児や年長者との交流の場が少なくなっており、年長者への尊敬や年少児への思いやりの気持ちが育ちにくい状況になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育ての素晴らしさや家族の大切さを地域全体で共有し、少子化に歯止めをかけ、地域ぐるみで子育てに取り組んでいます。
053	保育園	<ul style="list-style-type: none"> ●女性の社会進出や就労形態の多様化などにより、子どもの保育園への入園を希望する世帯が増加しています。 ●保護者と子どもが十分な保育サービスを受けられるよう、環境を整えていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事と子育てが両立できる保育環境や社会環境が整い、親は子どもを安心して育てることができます。
054	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児期は基本的な生活習慣を身につけ人格形成の基礎を育む大切な時期です。 ●より多くの子どもたちが充実した幼児教育を受けられるように、私立幼稚園や入園児の保護者に対して補助を行い、教育環境の整備を図っていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの成長に合わせた幼児教育を、適切な負担で受けることができます。
055	幼児療育通園センター	<ul style="list-style-type: none"> ●発達に遅れのある子どもによる通園センターの利用が年々増えています。 ●子どもたち個々の発達に合わせた適切な療育指導を進めていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●発達に遅れのある子どもが、基本的な生活習慣や集団生活に必要な適応力を身につけ、生活を送っています。
056	青少年・健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年の問題は、社会全体の問題という共通認識を市民全体として理解することが必要です。 ●子どもたちに、各種の学習機会を提供していますが、部活、塾・習い事など現在の子どもは多忙であり、子どもの価値観の多様化、少子化とあいまって自分の好きなことにしか興味を持たず、また親の意識の変化により参加できない状況が拡大しています。 ●一方で、いじめや非行など子どもを取り巻く環境は深刻な問題であり、その背景には少子化の進行や地域のつながりが弱まっていることが考えられます。家庭、地域全体で青少年活動の促進と心身の健全な青少年として成長させる環境づくりが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年の健全育成に、家庭・学校・地域・行政が一体となって取り組み、青少年の社会活動も活発になり、社会の一員としての自覚を持って、健全な生活をしている子どもが増えています。

【心意気14】学校教育の充実

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育は、子どもたちの心身の発達に応じて、その可能性を伸ばし、自主自立し、公共性を持った市民となることを願い行なわれなければなりません。 ・そのため、国・道・市の役割分担のもと、家庭・学校・地域・行政が一体となり、子どもたちの学ぶ環境を整備し、充実した教育を行い、心と身体のバランスの取れた子どもたちの成長を目指します。
----	---

目的	■ 児童・生徒が、心身ともにバランスよく成長できること
----	-----------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
79	学校教育環境が充実していることに対する満足度	%	市民満足度を測る						25.8	46.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
80	小学校・中学校における教育の充実に対する満足度	%	市民満足度を測る						32.1	53.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
81	栄養バランスを視点とした学校給食メニューに対する満足度	%	市民満足度を測る						48.2	68.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
82	子どもの教育について家庭と学校の連携が十分だと感じる市民の割合	%	子どもの教育について家庭と学校の連携が十分だと感じる市民の割合を測る						新規			市民満足度アンケート。H19年調査実施後に基準値と目標値を定める。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
057	学校施設	<ul style="list-style-type: none"> ●安全で魅力的な学校教育を行うため、小中学校施設の適切な維持管理に取り組んでいます。しかし、一部学校では校舎の老朽化が進み、災害時の安全性の確保や市内小中学校の適正配置を考えながら、建て替えも含めた検討が課題です。 ●廃校となった校舎等の取り壊しも懸案事項です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校施設の適切な管理と計画的な補修により快適、安全で魅力的な教育環境の整備が進み、良質な教育が行われています。
058	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ●完全学校週5日制のもとで4年が経過し、義務教育の内容、制度の更なる改革を求める中央教育審議会の答申が示されました。また、改正教育基本法が成立するなど公教育の再生を図る動きが加速しており、学校教育は大きな転換期にあります。 ●こうした状況を踏まえ、児童生徒の”笑顔と成長”をしっかりと支えることのできる学校教育を目指して、現状にとどまることなく、学校教育の充実、発展を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「学社融合(学校教育と社会教育との融合)」を重視しつつ学校教育の改善、活性化が進み、「開かれた学校」で、子どもたちの”笑顔と成長”の姿が見えます。
059	学校給食	<ul style="list-style-type: none"> ●学校給食では栄養のバランスに配慮し、成長期にある児童生徒の健康増進や体力の向上を図っています。 ●食の指導は本来家庭の役割ですが、充分でない場合もあり、栄養職員が学校に出向いて指導を行い、「給食だより」等で保護者への啓発活動を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●栄養バランスに配慮し、より多くの地元産食材を利用した学校給食が供給され、子どもたちの成長を育んでいます。 ●望ましい食習慣を身につけた児童生徒が増えています。

【心意気15】社会教育の充実

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へ、日本人の考え方が変わってきています。 ・長寿社会である我が国では、老後も心豊かに暮らせるために、また、経済一辺倒のライフスタイルを転換するためにも、生涯学習の果たす役割は大きいものがあります。 ・市民の芸術・文化やスポーツ・レクリエーション活動を活発にし、笑顔と汗のあふれる生活を深めていかなければなりません。 ・また、施設の維持・管理は、行政主導から市民主導へ転換し、使う側が自ら維持・管理することを基本に取り組んでいきます。
----	--

目的	■市民が、生涯にわたって学ぶことができ、心豊かに暮らせること
----	--------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
83	公民館利用実績 (中央公民館、東部地区公民館、幌糠地区公民館)	人	市民ニーズにあった社会教育施設づくりの度合いを測る	80,525	64,534	73,628	56,511	55,480	55,480	↗		生涯学習課調べ。基準値はH17年の数値。
84	文化センター利用実績	人	市民ニーズにあった社会教育施設づくりの度合いを測る	28,757	22,722	20,085	27,095	22,583	22,583	↗		生涯学習課調べ。基準値はH17年の数値。
85	海のふるさと館入館者数	人	市民ニーズにあった社会教育施設づくりの度合いを測る	61,411	68,819	64,187	106,085	49,370	49,370	↗		海のふるさと館調べ。基準値はH17年の数値。
86	図書館の市民一人当たりの貸し出し冊数	冊	市民の読書意欲の度合いを測る	4.2	4.6	4.9	4.9	5.2	4.8	5.3		市立図書館調べ。「年間貸し出し数÷総人口」。基準値は過去5年の平均値。
87	スポーツ施設利用実績 (スポーツセンター、ふるも、浜中運動公園、見晴公園(野球場・庭球場)、神居岩公園(パークゴルフ場))	人	市民ニーズにあった社会教育施設づくりの度合いを測る	90,379	161,842	153,104	156,622	155,888	155,888	↗		各施設担当課調べ。基準値は各施設のH17年の数値の計。
88	自ら生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合	%	市民の生涯学習の活動意欲の度合いを測る						29.9	48.0	65.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
89	社会教育環境の充実に対する満足度	%	市民満足度を測る						18.9	44.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
90	芸術鑑賞の機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						23.7	42.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
91	スポーツ活動などへの参加機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						27.4	50.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
060	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習社会の実現を目指し、「社会教育委員の会議」を年3回開催し、社会教育全般に対して検討する機会を設けています。 ●マイプラン支援事業などで、市民が自ら企画運営する講座等を支援し、人間性豊かな生活を営む社会教育の充実を図っています。 ●市民の生涯学習に対する関心を高め、幅広い学習メニューを実施するには、生涯学習指導者登録事業の充実が必要です。 ●自然観察会では、自然の大切さを知り、人と自然のつながりを考えるなど、野外観察を通じて自然保護思想の普及に努めています。 ●市立留萌図書館は、乳幼児から高齢者まで、広く利用されています。利用者から開館時間の延長や祝日(平日)の開館等の要望があり、サービス内容の見直しや図書館情報システムの更新を行い利用促進を図ることが課題です。子どもの読書活動を推進する取り組みを行っていますが、学校・関係団体や地域住民との連携や環境整備が課題です。管理運営に指定管理者制度の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習に積極的にチャレンジできる環境が整い、多くの市民が生涯学習に取り組んでいます。 ●市民が主体的な学習活動を実践できるよう、民間、NPO、大学等との連携が進み、様々な生涯学習の機会が増えています。
061	芸術・文化	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供するための「舞台鑑賞事業」や市民団体が企画運営している事業に対して「留萌市芸術劇場助成事業」を行っています。 ●芸術団体や個人が芸術文化活動を発表する機会を創出し、その活動の支援を行い、文化振興の功績に対しての顕彰(留萌市文化賞の授与)を行っています。 ●芸術鑑賞事業は、指定管理者との役割分担を考慮し、市民の多様化する価値観や嗜好を的確にとらえ、さまざまなジャンルから選ぶことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民や子どもたちの豊かな感性を養い、多様化したニーズに対応した芸術鑑賞の機会が増えています。 ●芸術文化活動の発表機会の創出や各種情報の収集・発信が活発になっています。
062	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ●市主催のスポーツ事業は、指定管理者が事業の企画から実施まで行っています。指定管理者の運営について、市の適切な指導・監督とサービスの向上、コスト削減が課題です。 ●子どもから高齢者まで市民一人ひとりが生涯にわたって楽しむ「総合型地域スポーツクラブ」の理念のもとNPOが主体となってスポーツに親しむ様々な環境を提供しています。活動拠点施設の老朽化への対応や競技スポーツ指導者の確保、参加支援などが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の誰もがいつでもどこでもスポーツを行える環境が整い、高齢者や障がい者の機能回復も含め、市民の健康増進、スポーツで汗をかく機会が増えています。
063	社会教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ●中央公民館、文化センター／施設の管理運営、事業実施に指定管理者制度を導入しています。 ●幌糠地区公民館／地域住民の意見を反映し事業を計画し、実施しています。 ●東部地区公民館／施設の管理運営、事業実施に指定管理者制度を導入しています。 ●スポーツ施設／温水プールを除くスポーツ施設の管理運営に指定管理者制度を導入しています。 ●温水プール／現在は、業務委託で運営していますが、指定管理者制度導入に向けて事務を進めています。 ●老朽化が著しい施設もあり、施設や設備の改修や整備も課題です。 ●指定管理者制度導入の施設では、市の適切な指導・監督、指定管理者と市との役割・責任の分担によるサービスの向上と運営コストの削減が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各施設が、市民の利用しやすい生涯学習施設として活用され、市民は充実した余暇生活を送っています。

【心意気16】魅力の再発見と創造

内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活・文化、歴史・風土、味・楽しみなど留萌のさまざまな“宝”や“魅力”を大切に育て、情報を発信し、人々が行き交う環境を作っていく必要があります。 特に、海水浴を中心とした夏の通過型観光から、通年の滞在型観光へ脱皮するため、さまざまな業種が一体となり、まち全体のホスピタリティ(おもてなしの気持ち)を高めるため、まちをあげて取り組み、留萌の評判を高めていきます。
----	---

目的	■ 市民が、まちの魅力を共有し、交流を深め、経済・文化が活発なまちにすること
----	--

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
92	観光客入り込み数	千人	観光の魅力の度合いを測る	362.9	333.9	294.9	391.3	256.4	256.4	297.0	332.0	商工観光課調べ。基準値はH17年の数値。
93	魅力を再発見、創造することに対する満足度	%	市民満足度を測る						6.2	36.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
94	手軽な観光、レジャー、イベントがあることに対する満足度	%	市民満足度を測る						13.4	32.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
95	外国人との交流機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						4.2	35.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
064	観光・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ● 主な観光施設として、黄金岬海浜公園、沖見海浜公園、千望台休憩施設などがありますが、施設の老朽化と有効活用策及び事業の運営主体を民間主導型に移行していくことが課題です。 ● 夏期間の海水浴場の開設、「呑涛まつり」などのイベントを行なっていますが、通過型観光が主力であり、滞在型観光への脱皮が大きな課題です。 ● H18年度より観光PRの一環として留萌地域の「食」の魅力を活かした観光振興や活性化に向けての取り組みを進めています。今後更に「自然と食の魅力を活かした地域づくり」を展開し、観光振興、物産振興の推進につなげていくかが課題です。 ● 「利雪・親雪」をテーマにした市民主導型の冬まつりは、ふるさとの遊びを体験でき、留萌の食を味わえる郷土意識の高い企画であり、市民向けのまつりとして定着してきています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海をはじめとする地域固有の有形無形の資源が効率的、広域的に利活用され、滞在型観光が展開されています。 ● 地域特有のイベント等が継続的に行われ、市民の笑顔があふれています。 ● 「食」を通じた観光が市民にも来訪者にも浸透しています。
065	国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ● ロシアのウラン・ウデ市との姉妹都市締結、中国の営口港務集团有限公司との友好港湾締結、カナダコートニーとの友好関係をきっかけに、市民交流、高校生交換留学の支援、経済団体の視察、市場調査等を行い各層での交流の活発化を目指し進めてきましたが、現実には定着せず、行政機関相互の交流にとどまっています。 ● 今後は民間の国際交流団体を中心とした交流に主軸を置き、市は側面支援の役割を担います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間の国際交流団体が中心となり、人・物・情報といった広い分野での交流が行われています。

【心意気17】郷土文化・歴史の伝承

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長とともに、国民生活が豊かになった一方で、日本全体が都市化され、生活が画一化し、わたしたちは、ふるさとの景色や地域への愛着ばかりか、地域の文化や歴史をも失おうとしています。 ・地域の文化・歴史や郷土芸能、文化財などの価値を地域とここに住む市民が認識し、後世に伝え、残すことは、わたしたちの使命と受け止め、努めていきます。
----	---

目的	■市民が、郷土の文化・歴史に誇りを持ち、守り、伝えること
----	------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
96	留萌の歴史や文化を大切にしたいと思う市民の割合	%	郷土の歴史・文化の継承に対する市民の意識度合いを測る						79.6	85.0	90.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
97	郷土文化・歴史の伝承することに対する満足度	%	市民満足度を測る						16.3	44.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
98	郷土文化・歴史にふれる機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						14.0	41.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
99	文化財、歴史的建造物の保存、活用に対する満足度	%	市民満足度を測る						20.3	46.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
066	郷土文化・歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●海のふるさと館では、特別展、企画展、巡回展、郷土講座及び講演会などの事業を実施し、郷土の文化と歴史を学習する場としての役割を果たしています。 ●課題は、維持管理コストの圧縮と運営体制の抜本的な見直しです。 	
067	文化財	<ul style="list-style-type: none"> ●国指定文化財として、重要有形民俗文化財「留萌のニシン漁撈用具」、史跡「旧留萌佐賀家漁場」があります。 ●文化財保護法により重要有形民俗文化財の所有者であり史跡の管理団体である市は、両文化財を適切に保存管理し、環境整備と公開・活用をするという課題があります。 ●留萌市指定文化財として、有形文化財3点、記念物2箇所を指定しています。課題として他の伝統芸能等の指定があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域固有の文化や歴史が適切に保存され、有効に活用されています。

【心意気18】自然環境の保護と緑の整備

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自然は子どもばかりか大人にとっても笑顔で暮らし、心と体を成長させるために欠かせないものです。 ・海、夕陽、山や川など留萌の恵まれた自然環境全体を見渡し、留萌にしかない豊かさ、自慢できる風景など留萌の価値を市民みんなで共有し、守り、地域のアイデンティティ(一体性)を強めていくことはわたしたち一人ひとりの課題です。 ・また公園や緑地、花や街路樹などの整備に、市民と行政が協働で取り組んでいきます。
----	--

目的	■緑に囲まれた環境で、うるおいやゆとりをもって暮らせるまちにすること
----	------------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
100	留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合	%	留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合を測る						62.6	70.0	80.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
101	自然環境の保護に対する満足度	%	市民満足度を測る						26.0	49.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
102	自然に親しむ機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						36.9	58.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
103	公園の緑地、広場、子どもの遊び場があることにに対する満足度	%	市民満足度を測る						32.1	46.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
068	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ●市街地の緑は少なく、7割以上の街区公園が標準規模の面積を満たしていません。 ●遊具類の老朽化も進んでいるため、公園の用途分けを含め、更新整備について検討が必要です。 ●市民の協力や参加を拡大し、協働による維持管理に取り組む必要があります。 ●公園の再編も視野に入れ、緑の基本計画を策定する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の憩いの場となる公園・緑地が整備され、子供からお年寄りまでが安心して時間を過ごし、市民の笑い声や笑顔があふれています。 ●市民が進んで公園の維持管理に参加しています。
069	花・街路樹	<ul style="list-style-type: none"> ●街路樹は歩道の幅員に余裕のある都市計画街路に多く植えられていますが、除雪による損傷も多く、予算の制約もあり、補植できずに撤去しているのが現状です。 ●歩道空間の幅員を広げるなど、市街地における新たな緑空間の創設に対する検討も必要です。 ●花による潤いのある都市環境を目指していますが、現在は花コンクールの実施のみです。また、緑のランドマークといえる場所がないことも課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民参加により、市街地に新たな緑空間が創設され、きれいで潤いのあるまちづくりが進んでいます。 ●将来に引き継ぐ緑のランドマークの整備が進み、それらを活かしたイベントが開催されています。

【心意気19】港を活かしたまちづくり

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・留萌の歴史は、海と港とともにあると言っても過言ではありません。 ・まちと関わりを持ち続けた港の歴史を留萌らしさのシンボルとして、あらためて認識したい。 ・わたしたちのふるさと“留萌”と“留萌港”のことを知り、楽しみ、活かすために、みんなで留萌を語り、愛し、気概を持って未来に伝えていくことが大切です。 ・また、港は、道北の玄関として、みんなに親しまれ、利活用されるよう努めます。
----	---

目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること ■ 道北圏域を含めた物流と地域経済が活発なまちにすること
----	---

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
104	留萌港取扱貨物量	万トン	留萌港の利活用の度合いを測る	191.8	170.7	168.5	147.5	143.0	143.0	→		港湾課調べ。基準値はH17年の数値。
105	留萌港に魅力や親しみを感じる市民の割合	%	留萌港に魅力や親しみを感じる市民の度合いを測る						21.6	30.0	60.0	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
106	港を活かしたまちづくりに対する満足度	%	市民満足度を測る						10.7	30.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
070	留萌港	<ul style="list-style-type: none"> ●H16年に三泊地区の-12m耐震岸壁が完成しました。今後は既存施設の有効活用や老朽化施設の計画的な改修が課題です。 ●「留萌港フェリー就航促進期成会」(H8年設立)と「留萌港フェリー就航促進道北連合会」(H11年設立)が情報交換や要請、陳情などを展開してきましたが、海運・物流業界の環境や状況が激しく変化しているため、今後の状況を見ながら進めていかなければなりません。 ●道北地域の物流拠点として産業面優先に整備してきましたが、今後はこれに加え、市民や留萌に訪れる方々が親しみを持って触れあえる港の整備が求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●港の老朽化施設の改修が進み、安全で効率的に港が利用されています。 ●交通基盤の整備が進み、陸・海・空のネットワークにより、留萌港の経済圏である留萌・上川・空知地域を中心とした物流が活発になっています。 ●港の持つ魅力や親水性に配慮したイベントが実施されるなど、市民の港への関心が高まり、親しまれています。
071	貿易	<ul style="list-style-type: none"> ●H14年策定の「対外貿易交流促進にむけた中期行動計画」に基づき、ロシア・サハリン州での展示会など留萌港の利活用に向けた様々な事業を展開していますが、長引く不況の影響などにより本格的な事業展開には至っていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌港背後圏の民間レベルによる貿易など、経済面の交流が活発になってきています。

【心意気20】 能率の良い市役所づくり

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画は、市民の生活や営みの視点から政策・施策を組み立て、市の予算、職員、時間などの経営資源を効率的に配分し、成果指標に基づく客観的な評価によって、内容を見直し、市民満足度の高い行政を進めるための進行管理のシステムです。 ・「市民満足度の向上」には、市役所に企業経営の発想を取り入れ、能率よく、良質なサービスを市民に提供するとともに、市民もまちづくりの主人公として、参加と協働により、自らの努力で生活の満足度を高めていくように努める必要があります。 ・市は財政運営、組織運営など「働く市役所」をテーマに、仕事の効率性や組織の能率性を高め、「最少の経費で、最大の効果をあげる」よう行政運営に努めます。
----	--

目的	■仕事の効率や能率が高く、最少の経費で最大の効果を生み出せるまちにすること
----	---------------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
107	経常収支比率	%	財政運営の健全度合いを測る	98.3	97.1	98.0	99.2	98.1	98.1	↘		財政課調べ。基準値はH17年の数値。
108	実質公債費比率	%	財政運営の健全度合いを測る					23.2	23.2	17.7		財政課調べ。基準値はH17年の数値。
109	市民一人当たりの地方債残高（全会計）	万円	財政運営の健全度合いを測る	195.7	195.6	195.5	195.5	193.2	193.2	↘		財政課調べ。基準値はH17年の数値。
110	市役所の仕事の能率に対する満足度	%	市民満足度を測る						17.4	100		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
111	健全な財政運営に対する満足度	%	市民満足度を測る						8.4	50.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
112	職員数（一般会計）	人	人事管理の適正度合いを測る	310	295	285	265	254	254.0	221.0		総務課調べ。各年4月1日現在の一般会計分の数値。基準値はH17年の数値。目標値は定員適正化計画におけるH22年度末の目標値。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
072	都市経営	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでは、「第4次総合計画」に成果目標が設定されていなかったため、成果指標に基づく事業効果の検証が行われず、総合計画による仕事の進行管理が困難でした。 ●現在は、事務事業評価と枠配分予算とを連動させ、評価に基づく事業の効果、成果、必要性を検証し、次年度以降の事業決定を行っています。 ●しかし、評価と予算編成とは連動を始めましたが、人事・組織面との連携が薄いという課題があり、総合的な都市経営システムの確立が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●5次総合計画では、市民と行政が共通の「ものさし」を持ち、互いに進行状況を把握できると共に、行政評価を中心とした都市経営システムを確立しました。 ●限られた資源(財源・人材)の効果的配分、政策決定、事業選択が行なわれ、無駄のない効率の良い行政運営が進められています。 ●目標管理制度の導入など、職員の意識改革に積極的に取り組んでいます。
073	地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ●地域にとって必要な制度改正や社会基盤整備について国や北海道に要望しながら、連携を図り地域の活性化を目指しています。 ●地域経済活性化懇談会により、市と商工会議所、農協、漁協、観光協会との意見交換を行い、地域経済の活性化を目指しています。 ●人口減少、高齢化、先行き不透明な経済環境など厳しい現状の中、地域振興対策の効果がなかなか見えてきていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国や北海道、各種団体などとの連携により、地域経済や市民の暮らしが活性化されています。 ●留萌に愛着、誇りを持ち、自らまちづくりに取り組む試みが芽生えています。
074	統計調査	<ul style="list-style-type: none"> ●国指定の統計調査を実施し、取りまとめをしています。 ●各種統計データをまとめ「統計書」を発行しています。 ●こうしたデータを基に、政策立案に利活用することが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●統計データなどを基に、市民のニーズや社会の変化に対応し、市民満足度の高い政策の立案と事務事業の実施が行なわれています。
075	広域行政	<ul style="list-style-type: none"> ●合併旧法に基づく市町村合併の協議は破綻しましたが、地方分権の推進に伴う自治体基盤の強化や経費の効率化、行政サービスの維持を目指し、広域連携や合併の可能性について検討、研究しています。広域的な行政連携の手法や取り組みに向けた意識醸成が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●合併も視野に入れた広域連携の可能性が研究、検討され、地方分権時代にふさわしい基礎自治体としての機能強化が図られています。
076	財政	<ul style="list-style-type: none"> ●市税収入の減少や国の三位一体改革による地方交付税の削減、国の景気浮揚対策、美サイクル館建設など長年の大型懸案事業の実施により、市債の償還がピークを迎え、収支均衡が図れない状況となったため、「財政健全化計画」(H12年策定)を全面的に見直し、H17年に「財政再建計画」を策定し、現在は財政再建に向け全力で取り組んでいる状況です。 ●新規の建設事業を縮小しながら地方債の新規発行(新たな借入金)を抑制し、財政を大きく圧迫している公債費償還(借入金の返済)が体力に見合った程度になるよう、財政構造を改革することが大きな課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●財政再建計画に基づき、市民と一体になって着実に実施していくことで、将来にわたって健全で安定的な財政運営が可能な財政構造が確立しています。

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
077	人事	<ul style="list-style-type: none"> ●財政再建計画と連動した定員適正化計画に基づき、職員の採用や定員管理を行い職員数を削減していく予定です。あわせて、新規採用による職員の新陳代謝により組織の活性化を図っています。 ●職員数の削減により、職員一人当たりの業務量の増加は避けられず、職員一人ひとりの能力の向上、モチベーション(やる気)の維持、能力と業績に応じた人事評価制度の確立が課題です。 ●職員給与は、国の人事院勧告に基づき、国家公務員の給与と同等となるよう制度の見直しを検討しています。現在、国の制度に合わせた給与水準の引き下げとは別に、財政再建に向けて独自削減を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員定数の管理が計画的に進められ、少数精鋭の効率的な組織体制となっています。 ●国家公務員の給与制度に基づいた適正な給与体系となっています。
078	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●与えられる研修から主体的に参加する自律・自己責任型の研修へ転換を図り、職場での総合的な人材育成を行うため、自主研修や派遣研修などの多様な研修を複合的に活用することが必要です。更には、人事制度との連携も図り、中長期的な視野で人材育成を行っていくことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●求められる職員像、必要とされる能力の習得のため、自ら学び育つ人材育成に取り組んでいます。 ●職員のやる気を育てる組織風土・職場環境となっています。
079	財産管理	<ul style="list-style-type: none"> ●市有財産の管理全般及び普通財産の管理を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●未利用地の計画的な処分など、市の財産が効率的で適正に管理されています。
080	契約	<ul style="list-style-type: none"> ●質の高い公共事業を確保するため、入札、契約手続きについて透明性、客観性及び競争性を高め、不正行為を排除するための入札、契約制度の改善を実施しています。 ●公共工事の減少に伴い、異業種参入や新規事業開拓に向けた動きが活発化しているため、地元業者の受注機会の確保に向けた情報提供、人材育成や技術向上を促すことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的に入札方式の点検と見直しが行われ、公正で透明性のある入札が行われています。
081	車両管理	<ul style="list-style-type: none"> ●H12年度から、車両の有効活用と経費の節減を目指し、公用車の一元管理を行い、各課に配属された車の共用化と台数の削減を進めてきました。 ●市所有バスは、公務以外に民間団体が公共的意義がある事業に使用する場合に貸し出しを行っています。 ●車両の老朽化や職員体制に課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●車両の稼働状況を分析し、適正な台数、配置を確保し、効率的な行政運営を支えています。

【心意気21】信頼される市役所づくり

内容	<ul style="list-style-type: none"> 市役所は、市民の代表である市長の政策を実施する機関です。当然、市役所は市民から信頼され、市民の意思とともに機能しなければなりません。 窓口の対応はもちろん、情報の共有、市民の声の市政への反映、個人情報の保護など、市民と市役所を結ぶ仕事を、信頼を基礎にしっかりと実施します。
----	---

目的	■ 市民と行政が協働する、市民満足度の高いまちにすること
----	------------------------------

成果指標と達成目標

指標No	指標名	単位	指標とする理由	過去データの推移					基準値	5年後目標値	10年後目標値	備考欄
				H13	H14	H15	H16	H17				
113	職員の信頼度	%	職員に対する信頼度を測る						19.0	100	100	市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
114	広報紙を読んでいる市民の割合	%	広報紙を読んでいる市民の割合を測る						87.7	89.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
115	市民の声が市政に反映される機会に対する満足度	%	市民満足度を測る						13.7	30.0		市民満足度アンケート。基準値はH18年調査の数値。
116	市政情報がわかりやすく・タイミングよく提供されていることに対する満足度	%	市民満足度を測る						新規			市民満足度アンケート。H19年調査実施後に基準値と目標値を定める。

各事業の現状と課題 & 5年後の姿

分類 No	施策分類	現状と課題	5年後の姿(2011年)
082	窓口	<ul style="list-style-type: none"> ●市には、住民基本台帳の事務をはじめ、各種届出の受理や証明書の交付などの「窓口業務」があります。現状では、各課ごとに行なわれているため他部署との連携や職員の接遇能力の向上が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の接遇能力が向上し、心の通いあう窓口対応が行われ、市民の満足度が向上しています。
083	広報広聴	<ul style="list-style-type: none"> ●広報業務では、「広報もい」の発行をはじめ、インターネットホームページ、地域FM放送、町内回覧、新聞報道など様々な方法を使い市政に関する情報を市民に提供しています。 ●広聴業務では、「市政懇談会」や「市長とホットライン」などにより、市政に関する市民の要望や意見を受け付け、業務の改善に反映しています。 ●各セクションの広報広聴活動に取り組む姿勢や意識に差があることが市内の課題です。また、市政情報を提供する手段として、どのような形が市民にとって望ましく、いかにして市民の声を市政に反映させるかが市民に対しての課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治に関する情報の共有が進み、市民の参加や協働など市民の自治が進展しています。 ●市政に関する情報が積極的に公開され、市民との情報交換の場が拡大し、市民と市の信頼関係が高まっています。
084	請願・陳情及び不服申し立て	<ul style="list-style-type: none"> ●請願・陳情は、市議会が受理した請願・陳情のうち、定例会で採択された案件は、市長がその処理を求められます。議会から処理経過と結果の報告を求められた場合、市長が定例会で報告します。 ●不服申し立ては、「行政不服審査法」に基づき、各課で対応していますが、処分を受けた者が、処分先(担当課)に申し立てを行うという点で、中立的な第三者機関である裁判所による行政訴訟と比べると、公正性や中立性に欠けるのではないかという指摘があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民からの請求に適切で迅速な事務処理が行われ、市民の信頼度が高まっています。
085	情報化	<ul style="list-style-type: none"> ●高速・大容量の情報通信を可能とする地域の通信基盤整備を促進し、それらを活用した市民相互のコミュニケーションや情報交換の場となる地域ポータルサイト(全体の入り口)システムの構築が課題です。 ●公文書目録の公開や市政情報コーナーなどを通して、市民への情報公開に努めます。 ●住民情報システムと税情報システムが分離しているため、事務が非効率です。また、各部各課からの行政情報が瞬時に発信できる体制になっていません。 ●個人の権利利益の保護、市民の理解と信頼に基づいた公正で民主的な市政運営に情報化の推進が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代IT技術が有効に活用され、より質の高い効率的な行政サービスの提供や情報の提供が行なわれています。 ●個人情報適切に管理され、市民の信頼感が高まっています。

【心意気22】その他の事務

内容 この項目には、教育委員会、議会事務局、選挙管理委員会、公平委員会などほかの21の施策に分類できない機関や事務をまとめています。

各事業の現状と課題

分類No	施策分類	現状と課題
086	教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき運営される行政委員会の一つで、合議制の執行機関です。 ●5人の非常勤の委員で構成され、委員は人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から議会の同意を得て任命されます。任期は4年。 ●委員の内から委員長が互選され、委員長は教育委員会の会議を主宰し委員会を代表します。教育長は教育委員会の基本の方針を受け、教育委員会事務局を指揮監督し教育行政を進めます。 ●留萌市教育委員会では、地域社会の教育に対する要請や教育行政を取り巻く社会状況の変化に対応し、市民の信頼に応える教育を実現するため、学校をはじめとする教育機関のあり方、教育委員会のあり方などについても継続した見直しを図り、民意を的確に反映しつつ、現場の創意工夫を十分に生かすことができる教育行政の実現を目指します。
087	選挙管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●地方自治法に基づき設置された行政機関で、選挙が選挙人の自由に表明する意思によって公明かつ適正に行われることを確保し、民主政治の健全な発達を期することを目的としています。 ●留萌市でも、投票率の低下、特に若者の投票率の低下が顕著であり、その対策が課題です。
088	監査	<ul style="list-style-type: none"> ●市の財務事務に関する監査のほか、H3年の地方自治法改正によって行政監査が加わり、一部事務組合を含めた決算審査等を含めるとその件数は相当数のものとなり、定期監査・行政監査は年間監査計画に基づき毎年限られた範囲での監査となっています。
089	議会	<ul style="list-style-type: none"> ●地方分権一括法により、地方公共団体の自己決定権は拡大し、住民の意思を代表する地方議会の役割は増大しています。 ●地方議会は自己改革に努めていますが、分権型社会の進展とともに地方議会の制度及び運営両面での充実強化が不可欠です。 ●今後、真の地方分権を実現する上で住民自治の根幹をなす地方議会の活性化がより一層要請されています。また、地方分権改革の理念を地域社会において具体化するため、地方議会が自主的かつ主体的に活動できる環境を作るとともに、二元代表制の下で地域社会における議会制民主主義が更に成熟する必要があります。 ●そのため留萌市でも市議会の権能強化及びその活性化のための議論を進めていくことが必要です。

施策 No	施策分類（中事業）	現状と課題
090	会計	<ul style="list-style-type: none"> ●会計事務には、現金及び物品の出納保管、現金及び財産の記録管理などがあります。市の行政を主として金銭面を通じて具体化するもので、市民のための行政サービスを支える役割を担っています。 ●会計事務の適正かつ効率的な執行に向けて、財務システムの導入や時間外勤務手当の短縮、職員給与の口座振込みにより大きな成果を得ました。今後は、更なる事務作業の適正化や効率化のため、収納システム導入や口座振替に伴う個人情報の保護の調査研究が必要です。
091	平和	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和59年に「平和都市宣言」を行い、「平和祈念式典」「戦争関連ポスター展」「資料展」「戦争関連図書コーナー」「記録映画」などの啓発事業を行ってきました。 ●課題は、より多くの市民が平和の大切さを考えることができ、参加できる事業展開です。
092	褒章	<ul style="list-style-type: none"> ●褒章制度は、明治14年12月の「褒章条例」（太政官布告第63号）により、紅綬褒章、緑綬褒章、藍綬褒章が制定されたのが始まりです。以降、大正7年に紺綬褒章、昭和30年に黄綬褒章と紫綬褒章が制定されました。 ●我が国の栄典制度は、国家または公共に対する功労、あるいは社会の各分野における優れた行いを表彰する制度として定着しています。
093	表彰	<ul style="list-style-type: none"> ●留萌市功労者表彰条例、留萌市顕功賞・留萌市荣誉賞規則、留萌市文化賞規則、留萌市納税表彰規則、私財寄付者等への感謝状贈呈に関する取扱要綱などに基づきそれぞれ表彰しています。
094	恩給	<ul style="list-style-type: none"> ●恩給は、北海道都市職員共済組合加入以前に退職した職員、もしくはその遺族に支給されています。現在は、受給者全てが遺族で、遺族扶助料のみとなっています。
095	公平委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●地方公務員法第7条第3項の規定に基づき、「留萌市公平委員会設置条例」により設置している行政機関です。 ●目的は、職員の勤務条件等に関する措置の要求や不利益処分についての不服申し立てに対する裁定を行うことです。 ●課題は、処分を課す所管と不服申し立て等を裁決する所管が同じため、公平・中立を趣旨とする行政委員会制度の建前と現実にギャップが生じていることです。
096	庁舎管理	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和37年に完成した現市庁舎は、建築後45年が経過し老朽化が進んでいます。財政難の中で、全面改修を行うのは困難であり、市政の拠点施設としての機能を維持するために最低限必要な補修を計画的に実施していきます。 ●管理経費も、庁内環境率先行動計画に基づいて、エネルギーやごみの減量化などにさらに積極的に取り組む必要があります。
097	秘書	<ul style="list-style-type: none"> ●行財政環境の変化に即した行政のスリム化に伴い、秘書業務も率先して経費節減に取り組みなければなりません。（市長交際費、広告料などの見直し等）
098	住基・戸籍	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、戸籍事務は、全国市区町村の6割以上が電子情報化を完了しています。留萌市は、大部分は未だに非効率な手作業で行っており、戸籍情報の電子化が課題です。

第5次留萌市総合計画 - 基本計画
[前期計画 2007-2011]

発行 : 北海道留萌市

発行年月 : 平成19年2月

発行年月 : 留萌市政策経営室企画調整課総合計画担当